



2019年12月3日
東日本旅客鉄道株式会社

サステナビリティボンドの発行について

- JR東日本は、当社初となるサステナビリティボンドを発行します。
サステナビリティボンドとは、環境・社会的問題双方の解決に資するプロジェクトを資金使途とする債券です。
- 当社は、グループ経営ビジョン「変革2027」においてESG経営の実践を掲げ、事業活動を通じて社会的な課題を解決することでSDGsの達成に取り組んでいます。サステナビリティボンド発行を通じ、お客さま、地域・社会、株主・投資家、社員をはじめとするステークホルダーに対し、改めて「変革2027」で推進するESG経営への取組みを発信します。こうして地域の皆さまやお客さまからの「信頼」を高め、当社グループの持続的な成長につなげることを目的としています。

1. サステナビリティボンドの発行概要について

1 年限	10年
2 発行総額	未定
3 発行時期	2020年1月（予定）
4 主幹事証券会社	三菱UFJモルガンスタンレー証券株式会社、 SMBC日興証券株式会社

※その他詳細は決定後にお知らせします。

2. サステナビリティボンド・フレームワークの策定および外部評価（セカンドオピニオン）の取得について

サステナビリティボンド・フレームワーク

サステナビリティボンドの発行にあたって、国際資本市場協会（ICMA）のサステナビリティボンドガイドラインに定められている4つの要素（1. 調達資金の使途、2. プロジェクトの評価と選定のプロセス、3. 調達資金の管理、4. レポーティング）に関する方針を記載した「サステナビリティボンド・フレームワーク」を策定しました。

<https://www.jreast.co.jp/investor/sustainability-bond/pdf/framework.pdf>

株式会社格付投資情報センターによる外部評価（セカンドオピニオン）

本フレームワークについて、株式会社格付投資情報センターより、サステナビリティボンドガイドラインなどの原則との適合性に対する外部評価（セカンドオピニオン）を取得しました。

https://www.jreast.co.jp/investor/sustainability-bond/pdf/second_opinion.pdf

3. 資金使途について

本サステナビリティボンドについては、E235系車両（横須賀・総武快速線）および交流蓄電池電車EV-E801系（男鹿線）を対象としています。

■ E235系車両（横須賀・総武快速線）

横須賀・総武快速線用に、山手線に導入しているE235系車両を投入する予定です。



E235系は、首都圏の通勤・通学を主とする輸送におけるさらなるサービス向上、安定性向上を目的に、多くの新規技術を導入した次期通勤型車両です。

主な特徴として、各車へのフリースペース設置によるバリアフリー設備の充実のほか、長時間停電などの異常時を想定し、駅間に停車した場合でも最寄駅等まで走行可能な非常走行用電源装置を当社で初めて搭載します。また、回生ブレーキによるエネルギーの有効活用により消費電力の低減を図っていることに加え、SiC素子を採用したVVVFインバータを搭載し、従来品からの回生ブレーキ電力の向上やインバータ装置の効率向上を実現しています。

■ 交流蓄電池電車EV-E801系（男鹿線）

2017年に新しく男鹿線へ導入された交流蓄電池電車EV-E801系について、量産車を製造し、2020年度以降順次、男鹿線へ投入する予定です。



EV-E801系は交流電化区間と非電化区間を走行できる新型交流蓄電池電車です。

蓄電池電車は、従来の気動車と比較してエンジンがなくなることから、エンジンからの騒音が解消できることに加え、エンジンから発生する排気ガスの解消、CO₂排出量の軽減を実現します。